

地域づくり「神山モデル」

～ 企業誘致から人財誘致へ～

特定非営利活動法人グリーンバレー
理事長 大南 信也
ominami.shinya@gmail.com

1. 「仕事がないので帰って来られない・・・。」

2. 過疎の町で起こった二つの“異変”

社会動態人口（2011年度）がプラスに転化

IT企業9社がサテライトオフィスを設置（2010年10月～）

3. グリーンバレーについて

・ 目指す方向とものの考え方

【ミッション】 ●日本の田舎をステキに変える！

【ビジョン】 ●「人」をコンテンツにしたクリエイティブな田舎づくり
●多様な人の知恵が融合する場「せかいのかみやま」づくり
●「創造的過疎」による持続可能な地域づくり

【GVI ウェイ】 ●できない理由より、できる方法を！
●とにかく始める（Just Do It!）

【プロジェクト】 ●アドプトプログラム ●神山アーティスト・イン・レジデンス
●森づくり ●棚田再生 ●空き家・商店街再生 ●劇場寄井座再生
●サテライトオフィス ●インターンシップ ●就業支援神山塾
●公共施設指定管理 ●神山町移住交流支援センター運営 etc.

4 . グリーンバレーの軌跡

青い目の人形『アリス』の里帰りが原点 [1991 年]

神山町国際交流協会 [1992 年]

国際文化村委員会 [1997 年]

・ 徳島県新長期計画「とくしま国際文化村構想」

グリーンバレー設立 [2004 年]

5 . アイデアキラー撃退法

できない理由よりできる方法を！

とにかく始めろ！（Just Do It!）

6 . 「国際文化村づくり」への二つのプロジェクト

『アドプト・プログラム』の全国初実施[1998 年]

『神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)』の開始[1999 年]

アーティストの制作滞在をビジネス(収益事業)に！

7 . ウェブサイト『イン神山』の制作

・ 「神山で暮らす」(空き家情報)による移住需要の顕在化

8 . 神山町における移住の歩み

・ I ターンのなかった町にアーティストたちが移住

9 . 「ワーク・イン・レジデンス」とは...？

・ 将来の町に必要な働き手・起業家を逆指名

10. 「ワーク・イン・レジデンス」を商店街再生に適用

- ・移住と起業と商店街再生をパッケージで解決

11. サテライトオフィスの誕生

- ・人のつながりと思いのかさなり

12. サテライトオフィスの現況と今後の動き

- ・サテライトオフィス街形成による商店街の再生

13. 『創造的過疎』による地域の再生

- ・過疎化（人口減少）の現状を受け入れ、人口構成を持続可能な形に変えていく

14. 「すき」な 添田 を「すてき」な 添田 に！

【参考資料】『奇跡の NPO、グリーンバレーの創造的軌跡』（日経ビジネスオンライン）

反常識、イケてる人が目指す過疎の町

設備やカネじゃない。その雰囲気がアーティストをひき付ける

新たなクリエイティブは「神山モデル」が作り出す

イン神山

検索

田舎で起業ラッシュのなぜ

徳島県神山町にオフィスを設ける企業が相次いでいる。新しい働き方を模索する企業と地元の思惑が合致した。「場」を作る「神山モデル」は地域作りの新しい形を示す。

四国の片田舎が企業誘致に沸いている。徳島県神山町。徳島市から西に車で50分ほどのところにある山間の小さな町だ。

地元のNPO法人(特定非営利活動法人)グリーンバレーが空き家再生を始めたのは2008年6月のこと。その後、1ターナーの受け入れを進める中で、サテライトオフィスを構える企業が増え始めた。人口6500人の町に、東京の企業が相次いでオフィスを構えるのはそうそうない。

クラウド名刺管理サービスの三三が2010年10月に古民家を借りたのを皮切りに、IT(情報技術)サービスのダンクソフトやコールセンター運営のテレコメディアなど6社に増えつつある。

三三やダンクソフトは既にオフィスとして活用している。3月から神山町で一人暮らし老人の見守りサービスを始めるテレコメディアは活動拠点として、ソノリテはコールセンターとして、ベルシオンやローカルアクションは本



徳島県の山間部が企業誘致に沸いている

社としての活用を視野に入れる。

神山町へのベンチャー企業の進出が相次いでいるのは、都会とは異なる環境に価値を見いだしているためだ。

アイデアは「場」が生み出す

「新しい開発スタイルを模索していた」と三三の寺田親弘社長が語るように、米シリコンバレーのエンジニアは場所に縛られないフレキシブルな働き方をしている。それが自由な発想やイノベーションにつながっていると言っても過言ではない。

三三の企業理念の1つは「顧客の働き方に革新を起こすこと」。その理念を体現し、新しい働き方を模索するために、自然豊かな神山町で

の「神山ラボ」の開設を決めたわけだ。その決断には、ひと月3万円前後の家賃と、神山町の全戸に光回線が整備されていたことも大きい。

もう1つは、グリーンバレーの存在だ。都会の人間が移り住む際に、地元住民との軋轢が生じることは少なくない。だが、グリーンバレーが地域社会との橋渡しをするうえで、空き家の斡旋や不在時の鍵の管理なども手厚い。

グリーンバレーが作り出す「場」に共感し、盛り上げたいと考える企業も少なくない。

神山町では様々な背景を持つ人々が集まりつつある。2008年以降、神山町にはパン屋やウェブ技術者、映像作家など約70人が移り住んだ。

実は、グリーンバレーは移住希望者を先着順で受け入れるのではなく、神山町が必要とする人材を逆指名するという手法を

取っている。それも、重視するのは手に職があるかどうか。少子化と高齢化に直面する神山町に必要なのは若者と子供だが、町内に雇用の場は限られているためだ。

「人が来れば、アイデアや考えが必ず残る」と大南信也理事長が語るように、グリーンバレーは技能を持つ移住者と地域住民、都会で働く技術者が交流することで、新しい事業やサービスを生み出そうとしている。「その流れの中に飛び込みたいと思った」とローカルアクションの平松玲社長は言う。

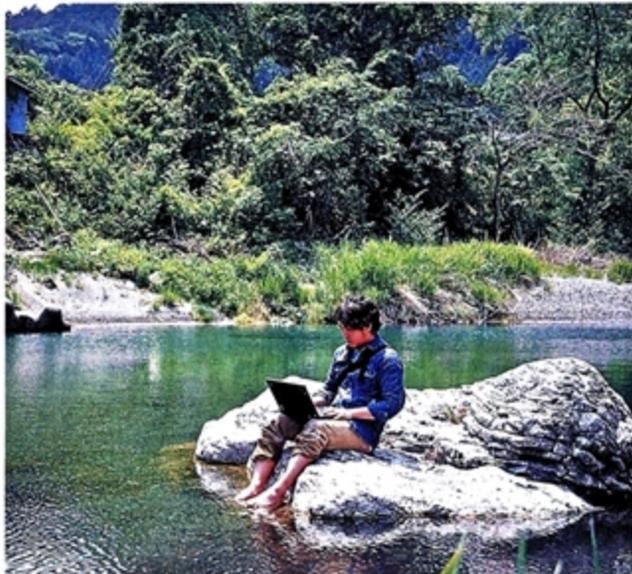
イベントのように、モノを中心としたシステムは飽きがかかるかもしれないが、人を適度に循環させておけば、継続的に新しい何かが生み出せる。神山町で相次ぐ起業ラッシュは、過疎化に苦しむ地域社会に1つのヒントを与えている。



空き家となった古民家はオフィスやスタジオに生まれ変わる

IT企業 集る山の町

徳島県の山奥の町が、ちょっとしたITブームに沸いている。豊かな自然と大きくくわりのネット環境が武器だが、何より発想を逆転させた町おこし策が、企業を引き寄せている。



オフィスから徒歩2分にある川の特等席。ネットは使えないが「リフレッシュできる」というダンクソフトの板林淳哉さん(徳島県神山町)

徳島 6社進出若者増えた

神山町の光回線

2011年の地上デジタル放送移行を前に、徳島県が中心となって、山間部の難視聴対策としてケーブルテレビ兼用の光ファイバー網を275億円で整備。町が無料で全戸に回線を引き込んだ。町内の利用料は月2625円。

徳島空港から車で約80分の神山町。特産のスタチンこそ生産量日本一だが、人口約6300人の約4割が65歳以上という過疎の町だ。ここに2010年以降、東京のIT企業6社が「サテライトオフィス」を構えている。

昨年9月、築約80年の民家に入ったウェブデザイン開発「ダンクソフト」(東京都中央区)の社員は、新鮮なまぶしい庭で仕事をしていた。疲れるとパソコン片手に40分先の川で足を浸し、ウグイスや風に耳を澄ませ



ず。プロジェクトごとに数人で1週間ほど合宿する。すでに20人の社員全員が利用した。同社の山下拓未さん(34)は「創造的な仕事は東京よりレベルが高いものができるといふ。それにしても、なぜ神山町か。家賃やその他経費を合わせても月5万円程度。全戸にある光回線も、利用者が少ないため通信速度は都市部の5〜10倍は出る。が、最大の魅力は、NPO法人「グリーンパレー」の空き家を利用した町おこし事業「ワーク・イン・レジデンス」にあった。

補助金で若い家族を誘うのではなく、町の理想像を描き、「そのために必要なのはこんな職業人」と必要とで逆指を打つ。たとえば「町にない窯焼きのパン屋」を募り、実際にパン職人を呼び寄せた。ウェブ技

術者、映像作家も招いた。やがて洋菓子職人なども募集外の職業人からも希望が寄せられた。その中に、10年10月に進出した最初のIT企業、ネット名刺管理「三三三」(東京都千代田区)があった。後に続いたダンクソフトが東京で町を紹介し、進出が加速した。一連の事業で、町に20、30代の夫婦ら約70人が移住(08〜11年)。11年度は、記録のある70年度以降初めて転入者が転出者を上回った。IT企業1社が20、30代4人を採用するなど、雇用も生まれている。

遠隔会議システムの市場開拓を目指す日本マイクロソフト社(東京都港区)も、社長自身を含め2度、町を視察し「ここには新しいワークスタイルの可能性がある」と評価している。

NPO理事長の大南信也さん(58)は「町の12番札所焼山寺は四国霊場八十八カ所最大の難所。ここで断念するお遍路さんを温かくもてなす伝統が、事業に生かされている。田舎の空き家でも、最先端のビジネスができるんです」と話している。

(伊藤あかり)

